

井堤蛙旧址ゐでのかはづのみきうし〔たまみづのさと玉水里の東の方にあり、今田となす。此所の字をふうろのやぶ風呂藪といふ。いにしへ蛙の多く集りし所なりと

ぞ〕

井堤茶ゐでのやまぶきのさうせき旧蹟たみづ〔さんかゐでの玉水の東の山下井堤里にあり。又玉川の兩岸に植しよし無名抄に見へたり、委くは前編にあり〕

御集 山吹の花のしがらみかひもあらじとまらぬ春の井堤いでの里人 順徳院

壬二集 ちらさじと井堤みでの里人をしむとも折てかざらん山吹の花 家隆

井堤中路ゐでのなかみち〔ゐでのさと井堤里にあり、古の大和やまと大路なり〕

春日社かすがのやしら〔ゐでやまのうへ井堤山上三町許にあり。此所にがらん伽藍の跡あり、寺号詳ならず〕

名 寄 人しれず心へだつないはでのみ年月過る井堤の中道 中務

井堤山ゐでやま〔かみゐで上井堤のひがしの山をいふ〕

井堤石橋ゐでのいはし〔いにしへ井堤山ゐでにありしが、今絶てなし〕

名 寄 井堤ゐでの山よそながらだにみるべきに峯の白雲立なへたてそ 好忠

歌 枕 通らし井堤の岩橋たどるまで所もさらず咲る款冬

読 人 し ら ず

井堤寺旧跡ゐでじのきうせき〔井堤山ゐでにあり。冷泉家れいぜいけのき記曰、小野小町をのこまち六十九歳にて井堤寺ゐでじに於て死すと。云々。光広卿みつひろきやう百人一首抄

曰、小野小町のをはりける所は山城国やましろ井出里ゐでなりとなん、可レ尋。云々〕

下馬石げばいし〔春日社かすがのの下坂路したさかみちひだり左のかたはらにあり。下馬げばの字截石の面に鑿。伝云、弘法大師こうぼうだいしの筆跡なりと。古へは此ほとり寺院多し、開基旧伝紛失す〕

有王芝ありわうがしは〔井堤山ゐでの南の谷を寅卯に入る事一里余にあり。其地右の山腹に方四町許の芝生あり。有王ありわうの名義詳ならず。

又有王谷だにともいふ〕

風穴かざあな〔井堤ゐでより有王芝ありわうしはに至る路の中間三町ばかりに大岩あり、これを風穴ふうけつといふ。由来詳ならず〕

藪渡口やぶのわたし 〔大和街道木津川の渡口なり。玉水の南七町ばかりに、南は祝園吐師を経て大和国歌姫に至る、是より南都

西京に及び郡山法隆寺等の街道なり〕

鳥井とりゐ 〔藪の渡口の東の堤、奈良道の左の里なり。いにしへ此所に光明山寺の鳥居あるゆへ名とす。上古は仏閣に鳥

居を立る事例あり、今摂州四天王寺、同州勝尾寺にあり〕

光明山寺旧蹟くわうみやうせんじのきうせき 〔石垣村の南綺田のひがし山上にあり、年久しく荒廢して伽藍の跡存す。其地山上にして麓より十

八町の坂路あり、其中間を国見嶽といふ、此所南北に及び西の方晴わたりて風景よし、近世此地より観音の像現じ給ふ故に堂を造つて安置し、国見観音と称す。又諸伽藍の跡は平地南面にして、前に溪川あり。光明山寺の開基詳ならず。

一説に仁和寺の寛朝僧正開くといふ〕

僧都頼基光明山に籠りぬと聞てつかはしける

金 葉 うらやまし浮世を出ていか許くまなき嶺の月をみるらん

橋 能 元

か へ し

諸ともに西へや行と月影のくまなき岑を尋てぞこし

僧 都 頼 基

狛里こまのさと〔上狛下狛両村あり、委は前編に見へたり。いにしへは此所に瓜を多く作りて名産とす、山里亘和歌に咏ず〕

拾遺 さだめなくなるなる瓜のつゝみても立やよりみん狛のわぎもこ 三位 国章

玉吟 五月雨はわたりを遠み泉川狛山見えず雲ぞかゝれる 家隆

夫木 山近み朝たつ雲と見へつるは狛野の野の煙なりけり 公任

神童寺越じんどうじ〔狛里の良にあり。四面山にて中に北吉野神童寺あり、即ち神童寺を所の名とす。こゝに往還道あり、笠

置を経て伊賀上野に出る〕